

平成27年度 文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」
(課題3「教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発」)

小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員の
養成に関する調査研究

委託業務成果報告書
(平成27年度)

2016年3月

東海大学短期大学部

はじめに

本調査研究は、平成27年度総合的な教師力向上のための調査研究事業として、文部科学省より委託されたものです。

この事業は、「世界トップレベルの学力と規範意識を備え、歴史や文化を尊ぶ心を持つ子供たちを育む「教育再生」を実行していくために（略）実践的指導力を身に付けた教員や、学校を適切にマネジメントし責務全うできる管理職の確保・育成に向けた総合的な教師力向上の取組」（文部科学省公募要領・公募要領）と位置付けられており、本学の取組は、そのうち、「課題3：教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発」の一環として実施しました。

近年、全国の教員養成課程認定大学において、就学前教育（以下、幼児教育）を主としながらも小学校教員免許状の取得を可能とする学科等が増加してきております。しかしながら、本学をはじめとして、多くの養成大学においては、幼児教育と小学校教育との連携を見通した養成には未だ十分な配慮がなされているとは言えず、特に、「小学校への見通しを持った幼児教育」を担える教員の養成が十分になされていないのが現状です。本調査研究では、「小学校への見通しを持った幼児教育」の実現に向けて、養成された教員を採用する幼稚園（含、保育園、こども園）、小学校、教育委員会等への調査、及び、幼稚園教諭（含、保育士）と、小学校教諭の同時取得を可能とする養成大学、教員となった卒業生に対する調査を通して、その現状と課題を明らかにしました。これらを踏まえて、「小学校への見通しを持った幼児教育」に係る課題の明確化、及びその課題に対応するために求められる資質能力の確認を行うとともに、その資質能力の養成に向けた有効な養成プログラムの提言を行いました。

本報告書はこのような内容を中心に構成されています。お忙しい中、貴重なご意見、ご助言を賜りました幼稚園、保育園、こども園、教育委員会、そして各養成大学の関係者、卒業生の皆様にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

東海大学短期大学部

小学校への見通しを持った幼児教育に資する
教員養成プログラム検討推進委員会

目次

はじめに

1. 調査の概要	
1. 1 課題認識	3
1. 2 調査研究の目的	3
1. 3 調査研究の内容	4
1. 4 調査研究体制	4
1. 5 学外連携	5
1. 6 実施計画	5
1. 7 推進委員会議事内容	7
1. 8 本学の現状（東海大学短期大学部）	8
1. 9 これまでの調査研究実績（東海大学短期大学部）	9
2. 調査研究の方法	
2. 1 アンケート調査の概要	10
2. 2 ヒアリング調査の概要	21
3. 調査研究の結果	
3. 1 幼児教育と小学校教育の連携・接続の現状と課題	22
3. 2 幼児教育と小学校教育に係る教員に求められる資質・能力	38
3. 3 養成大学の現状と課題	43
3. 4 シンポジウム報告	47
4. 提言	
4. 1 養成プログラムに求められる観点とその事例	56
4. 2 養成プログラムを巡る課題	58

1. 調査の概要

1. 1 課題認識

平成27年度から施行、実施される認定こども園法に示されるように、就学前の子どもに係る教育は、一元化されることになった。これにより、就学前教育（以下、幼児教育）と小学校教育との連携・接続はこれまで以上の進捗が期待されるが、実際にはあまり進んでいないのが現状である。その理由の一つに、現在の教員に、幼児教育と小学校教育とを連続して捉えることの必要性への意識、スキルが欠落していることが挙げられる。特に、今後予想される幼保連携型認定こども園の大幅増加においては、幼児教育の観点から、より一層、小学校教育との連携に配慮を要することが求められており、「小学校への見通しを持った幼児教育」の推進は必須な状況となっていると言えよう。そのため、教育現場における連携促進だけでなく、養成段階において、幼児教育と小学校教育との連携・接続の必要性を踏まえた資質能力の形成が求められており、そのための養成教育の構築が強く求められているのが現状である。

1. 2 調査研究の目的

近年、全国の教員養成課程認定大学（以下、養成大学）において、幼児教育を主としながらも小学校教員免許状の取得を可能とする学科等（※1）が増加してきており、幼児教育と小学校教育との連携を踏まえた教員養成については、その体制が整いつつあると言える。しかしながら、本学をはじめとして、多くの養成大学においては、幼児教育と小学校教育との連携を見通した養成には未だ十分な配慮がなされているとは言えず、特に、「小学校への見通しを持った幼児教育」を担える教員の養成が十分になされていない状況である。その理由としては、小学校教育へ向けた幼児教育という観点からの課題把握が十分になされていない点、また、大学の養成カリキュラムにおいては免許法等関連法令への対応へ重点を置くことで、教育課題に対応する柔軟なカリキュラム設計がなされていない点等が挙げられる。そのような状況を踏まえ、本調査研究では、「小学校への見通しを持った幼児教育」の実現に向けて、幼小連携に関する現状・課題の把握、また、異種免許同時取得可能な養成大学の現状・課題の把握、更には、養成大学で養成された教員（卒業生）に対する意識調査等を通して、現行の教育現場、養成段階、それぞれの課題を明らかにし、「小学校への見通しを持った幼児教育」推進に求められる資質能力の明確化を図るとともに、それに対応した養成カリキュラムについて具体的提言を行う。

※1. 短期大学においては、27校が該当する。（平成27年度現在）

1. 3 調査研究の内容

本調査研究では、養成された教員を採用する教育委員会、小学校、幼稚園（含、保育園、こども園）等への調査、及び、幼稚園教諭（保育士）、小学校教諭の同時取得を可能とする養成大学に対する調査を通して、その現状と課題を明らかにするとともに、教員となった卒業生の意識調査を実施する。これらを通して、現在、喫緊に対応を求められている課題の明確化、及びその課題に対応するために求められる資質能力の確認を行うとともに、その資質能力の養成に向けた有効な養成プログラムの策定を行う。また、調査研究の過程において、外部からの専門家を招聘したシンポジウムを開催し、成果と課題の検討・確認を行うとともに、本調査研究の課題意識とその成果について広く告知を行う。

1. 4 調査研究体制

「小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員養成プログラム検討推進委員会」（以下、「推進委員会」）を学内に設置し、個々の研究の推進、調整、並びに研究全体推進のための調整を図る。また推進委員会のもとに3つのワーキンググループ（WG）を立ち上げ、以下の調査研究を進める。

1) 連携課題検討WG：教育委員会、教育現場（小学校、幼稚園、保育園、こども園）を対象に、幼児教育と小学校教育との連携に関する現状と課題について把握する。特に、幼児教育と小学校教育といった異種教育機関では、連携意識に違いがあることが既にこれまでの研究等（「保幼小連携の成果と課題」@文部科学省HP）で示されているため、その点に留意して調査を進める。

〔教育委員会に対する調査内容〕：①新規採用教員に対する研修内容、②連携促進への支援体制と支援内容、③養成大学との連携状況、④把握している課題。

〔教育現場に対する調査内容〕：①新規採用教員に対する校園内研修内容、②異校種との連携実態、③把握している課題と成果。

以上をアンケート調査およびヒアリングによって行う。

2) 養成課題検討WG：養成大学を対象に、幼小連携を踏まえた教員養成の現状と課題を把握するとともに、教員となった卒業生に対する調査を通して、隣接異種免許取得の現状と課題について明確化する。

〔養成大学に対する調査内容〕：①カリキュラム調査、②免許種の位置付け、③就職状況（就職率、離職率）、④把握している課題と成果。

[卒業生に対する調査内容]：①異種免許取得による現業に対する有用性、②養成大学への意見、③職務上の課題。

以上をアンケート調査およびヒアリングによって行う。

- 3) 養成プログラム検討WG：教育委員会、教育現場における幼小連携の課題と、大学での養成の課題とを整理し、幼小連携に求められる資質能力を確認する。またそれらを育成するためのプログラムについて提言をまとめる。その際、①教育現場との協業による養成プログラムについては、教育委員会、教育現場からの助言を受け、実施可能な内容を検討する。②養成プログラムは、履修カリキュラムモデルとして提言する予定だが、その点についても養成大学からの助言を得て、より実効性の高いものを構築することを目指す。

また、研究成果がある程度明らかになった時点で、本学教員、養成校関係者、教育委員会・現職教員等による「研究成果シンポジウム」を開催し、研究成果の検証をするとともに、その結果も踏まえて研究報告書を作成し、関係各所に配布することで、本研究成果を広く社会に公開する。

1. 5 学外連携

- ①静岡市教育委員会：静岡市は公立幼稚園、保育園のすべてが平成27年4月より幼保連携型認定こども園となる。その際の小学校との連携に関する基本的方針、および求められる教員像等に関する調査。本研究での提言に対する助言。
- ②静岡市の私立幼稚園、保育園：小学校との連携を踏まえた教員像等に関する調査。本研究での提言に対する助言。
- ③こども園と小学校の併設校（私立）：幼小連携に関する基本的方針および求められる教員像等に関する調査。本研究での提言に対する助言。（東海大学附属小学校、認定こども園東海大学附属幼稚園）

1. 6 実施計画

- 4月 第1回「小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員養成プログラム検討推進委員会」（以下、推進委員会）、研究内容の確認、アンケート内容、ヒアリングシートの内容検討（各WG）
- 5月 第2回推進委員会 アンケート内容、ヒアリングシートの内容検討（各WG）、検討結果を踏まえた静岡市教育委員会へのヒアリング。※3名訪問
アンケート調査対象の選定 教育委員会 100 箇所、教育現場 800 箇所（連携課題検討WG）、養成大学 100 箇所、卒業生 200 箇所（養成課題検討WG）
- 6月 第3回推進委員会 アンケート内容、ヒアリングシートの内容確定（各WG）、アンケート調査対象の選定（継続） 教育委員会 100 箇所、教育現場 800 箇所（連携課題検討WG）、養成大学 100 箇所、卒業生 200 箇所（養成課題検討WG）
- 7月 アンケート発送（連携課題検討WG、養成課題検討WG）、ヒアリング対象の選定・実施（～11月） 教育委員会 5 箇所 [静岡、浜松、横浜、金沢、長野]、教育現場 10 箇所 [ヒアリング対象教育委員会所在地]（連携課題検討WG）、養成大学 8 校 [千葉、埼玉、東京、山梨、愛知、奈良、山口、佐賀]（養成課題検討WG）
- 8月 アンケート回収・分析（連携課題検討WG、養成課題検討WG）
- 9月 ヒアリングの実施（養成課題検討WG）第4回推進委員会 アンケート分析報告、ヒアリング中間報告 ※連携先助言者（3名）。アンケート結果、ヒアリング中間報告の把握（養成プログラム検討WG）
- 10月 ヒアリングの実施（養成課題検討WG）
- 11月 ヒアリングの実施・分析（養成課題検討WG）第5回推進委員会 ヒアリング結果報告 ※連携先助言者（3名）。ヒアリング結果報告の把握、養成プログラム検討（養成プログラム検討WG）。養成プログラム検討（養成プログラム検討WG）第6回推進委員会 「研究成果シンポジウム」の内容検討

- 12月 第7回推進委員会 養成プログラム案の検討、「研究成果シンポジウム」の内容
検討。※連携先助言者（3名）養成大学（3名）からの提言（メール等を活用）
- 1月 研究成果シンポジウム開催（提携先助言者3名、養成大学1名、本学教員）
第8回推進委員会 養成プログラム案の策定、研究報告書の目次案の検討
研究報告書原稿作成（各WG）
- 2月 第9回推進委員会 研究報告書原稿の確認
研究報告書原稿入稿
- 3月 研究成果報告書完成 1300部
研究成果報告書発送 1200箇所（教育委員会 100箇所、教育現場 600箇所、養成
大学 100箇所、その他 200箇所）

1. 7 検討推進委員会議事内容

第1回 2015年 5月21日（木）

- (1) 概要説明（※配布資料参照）
- (2) ヒアリング対象の検討
- (3) 次回までの課題

第2回 2015年 6月25日（木）

- (1) 前回議事録確認
- (2) 小学校教育、幼児教育現場等に対するアンケートの内容の検討
- (3) 養成大学に対するアンケートの内容の検討

第3回 2015年 7月9日（木）

- (1) 前回議事録確認
- (2) 小学校教育、幼児教育現場等に対するアンケートの内容の検討
- (3) ヒアリング先の選定

第4回 2015年 8月5日（水）

- (1) 前回議事録確認
- (2) 小学校教育、幼児教育現場等に対するアンケートの内容の検討

- (3) 養成大学に対するヒアリングの内容の検討

第5回 2015年 9月10日(木)

- (1) 前回議事録確認
- (2) 養成校に対するアンケートについて(内容の検討、具体的な発送先の検討、ヒアリング調査)
- (3) 小学校教育、幼児教育現場に対するアンケートについて(具体的な発送先の検討)

第6回 2015年11月12日(木)

- (1) 前回議事録確認
- (2) 養成校に対するアンケートについて(内容の検討、具体的な発送先の検討)
- (3) 小学校教育、幼児教育現場に対するアンケート回収状況について(ヒアリング調査先の検討依頼)

第7回 2016年 1月22日(金)

- (1) 前回議事録確認
- (2) アンケート回収状況について(2016年1月22日現在)
- (3) シンポジウム実施(案)について
- (4) 委託研究ヒアリング調査実施計画(案)
- (5) ヒアリング内容
- (6) ヒアリングの際の出張伝票(青)記載について
- (7) 文部科学省・教師力向上フォーラムについて
- (8) 今後の予定

第8回 2016年 3月 4日(金)

- (1) 前回議事録確認
- (2) ヒアリング報告
- (3) シンポジウム報告
- (4) カリキュラム構成案について
- (5) 報告書の作成について

1. 8 本学の現状（東海大学短期大学部）

本学児童教育学科（入学定員100名）は、卒業生の殆ど（95%）が、幼稚園教諭免許、小学校教諭免許、保育士資格を取得し、幼児教育・保育（80%）、小学校教育（20%）の職に就いている。

本学の養成においては、デマンドサイド（養成された教員を受け入れる側：教育委員会、幼稚園等）から求められる教員の資質能力を「学習成果」として策定し、その習得に向けた実践プログラムを実施することで、資質能力が十分形成されていると認識（1年以内の離職者1%）している。（参照：「9）これまでの調査研究実績」①～③）。幼小連携に関する教育内容としては、教職実践演習において、幼児教育・小学校教育連携に関する基本的知見の習得（大学教員による講義）、現状と課題の把握（小学校長・幼稚園長による講義）に努めるとともに、幼小連携に関する卒業生へのリカレント講座、既卒者訪問サポートによる異種免許取得に対する意識アンケート調査などを実施してきた。しかしながら、現在求められている、幼児教育と小学校教育との連携には未だ十分な配慮がなされたとは言えず、特に、「小学校への見通しを持った幼児教育」を推進できる教員については未だ十分に養成されているとは言い難い状況である。

1. 9 これまでの調査研究実績（東海大学短期大学部）

①平成19年度教職課程の課程認定後の事後評価のあり方に関する調査研究事業「資質の高い幼稚園教諭養成のための複合評価システムの開発」

②平成21年度教員の資質能力追跡調査事業「評価指標を活用した教員養成に関する調査研究」、③平成22年度教員の資質能力の向上に係る基礎的調査「評価指標を活用した教員養成・資質向上に関する調査研究」

※①を踏まえた策定した「実践力確認シート」を基にした教育プログラム「実践力向上のための教員養成プログラム」は、平成20年度質の高い大学教育プログラムに選定され、取組終了後（平成23年）の事後調査において、「特に波及効果が期待でき、他大学等への参考となりうる取組」として評価を得たものである。また、②、③については同プログラムでの成果を、教員養成の観点から改めて評価（アセスメント）したものである。

2. 調査研究の方法

2. 1 アンケート調査の概要

(1) アンケート内容と送付について

6月よりアンケートの検討を開始し、アンケート対象を、教育現場、養成大学の2に分け、前者をさらに、「幼稚園・保育園・こども園」、「小学校」、「教育委員会等」に3分し、それぞれアンケートA～Cとすることとした。

アンケートA～Cについては、8月までに内容の確定を行い、9月に送付先の選定、10月にこども園1園、小学校1校へのヒアリングの試行を行い、その結果を踏まえて、10月にアンケートの成案を確定。同月に、アンケートA（幼稚園・保育園・こども園）481通、アンケートB（小学校）296通、アンケートC（教育委員会等）120通を送付した。送付内容は、鏡文「アンケート回答のお願い」、「取組パンフレット」、「アンケート」（A4両面刷1枚）、「返信用封筒」である。（※次頁、資料1～5参照）

養成校へのアンケートは、7月に内容案を定め、養成大学1校へのヒアリングの試行を行い、その結果を受け、8月にヒアリング内容、9月にアンケート内容の再検討を行い、11月にかけて内容、送付先の検討を進め、11月末に102通の発送を行った。送付内容は、アンケートA～Cと同様である。（※次頁、資料1、2、6参照）

なお、送付先の選定については、各委員を地区毎に分け、そこから一定数のアンケート先を無作為抽出し、その集積されたものから、必要数を更に無作為抽出する方法をとった。

(2) アンケート回収状況について（2016年1月22日時点）

	回 収 / 発 送 (回収率)
アンケートA（幼稚園・保育園・こども園）	218通 / 481通（45.3%）
アンケートB（小学校）	137通 / 296通（46.3%）
アンケートC（教育委員会）	61通 / 120通（50.8%）
養成大学アンケート	26通 / 102通（25.5%）
合 計	442通 / 999通（44.2%）

回収された442通のアンケートをもとに分析を行った。

資料 1. アンケート回答のお願い

2015年10月

関係者 各位

東海大学短期大学部

学長 柴田 正憲

小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員の養成に関する調査研究
(文部科学省 平成27年度総合的な教師力向上のための調査研究事業選定)
アンケート回答のお願い

拝啓

時下益々清祥のこととお喜び申し上げます。平素より、本学の教育活動に際しましては、格別の御理解、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて本学では、本年度、文部科学省より選定されました「小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員の養成に関する調査研究」(平成27年度総合的な教師力向上のための調査研究事業)を行っております。

この調査研究は、現在求められている、「小学校への見通しを持った幼児教育」を担うことのできる教員に求められている資質能力を明らかにし、その養成カリキュラムを提言するものです。そのため、幼児教育(幼稚園、保育園、こども園等)と小学校教育の連携に関する現状の課題、成果等を把握することが求められております。(詳細は、別添の資料をご覧ください。)

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、同封のアンケートにご回答の上、同封の封書でご返信頂ければ幸甚です。年度末には、アンケート結果を踏まえた研究報告書を送付させていただきます。

本学では、今後とも、教職の素晴らしさ、大切さを広め、よりよい教育者・保育者を養成するため、努力を続けていく所存です。皆様方の御理解、御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

敬具

問合せ先

東海大学短期大学部児童教育学科

TEL :054-261-6321 (代表)

FAX :054-261-6842

e-mail : jidoukyo@sjc.u-tokai.ac.jp

担当 : 山本康治、望月みどり

資料 2. 取組パンフレット



東海大学短期大学部

小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員の養成に関する調査研究

[平成 27 年度文部科学省「総合的な教師力向上のための調査研究事業」採択]

(課題 3：教育課題に対応するための教員養成カリキュラム開発)

【趣旨】近年、主体的・協働的な学びの実現、小中一貫教育、英語教育、道徳教育、ICT教育、特別支援教育など、学校が様々な教育課題に取り組むことが求められている。このような中、大学の教員養成課程において、これらの課題に適切に対応し、学校現場の実情に即して教育活動を展開していくことのできる実践的指導力を育成することが期待されている。このため、大学の教員養成課程において、教育委員会や小中高等学校等と連携することなどにより、上記をはじめとする学校現場の教育課題に適切に対応できる実践的指導力を育成する教員養成の在り方について調査研究を実施し、その成果を普及することによって、同様の取組の促進を図る。【文部科学省】

【本学の取組】(東海大学短期大学部・児童教育学科)

近年、全国の教員養成課程認定大学(以下、養成大学)において、就学前教育(以下、幼児教育)を主としながらも小学校教員免許状の取得を可能とする学科等が増加してきており、幼児教育と小学校教育との連携を踏まえた教員養成について体制が整いつつあると言えます。しかしながら、本学をはじめとして、多くの養成大学においては、幼児教育と小学校教育との連携を見通した養成には未だ十分な配慮がなされていないとは言えず、特に、「小学校への見通しを持った幼児教育」を担える教員の養成が十分にされていないのが現状です。その理由としては、小学校教育へ向けた幼児教育という観点からの課題把握が十分にされていない点、また、大学の養成カリキュラムにおいては免許法等関連法令への対応へ重点を置くことで、教育課題に対応する柔軟なカリキュラム設計がなされていない点が挙げられます。そのような状況を踏まえ、本調査研究では、「小学校への見通しを持った幼児教育」の実現に向けて、以下のⅠ～Ⅲの調査研究を実施します。

Ⅰ 連携課題の調査・把握

教育委員会、学校教育現場等を対象に、幼児教育と小学校教育との連携に関する現状と課題について把握します。[調査内容]:①新規採用教員に対する研修内容、②連携促進への支援体制と支援内容(教育委員会)、異校種との連携実態(学校教育現場)、③養成大学との連携状況(教育委員会)、④把握している課題。以上をアンケート調査およびヒアリングによって行います。

Ⅱ 養成課題の調査・把握

養成大学を対象に、幼小連携を踏まえた教員養成の現状と課題を把握するとともに、教員となった卒業生に対する調査を通して、隣接異種免許取得の現状と課題について明確化します。

[養成大学に対する調査内容]:①カリキュラム調査、②免許種の位置付け、③就職状況(就職率、離職率)、④把握している課題と成果。[卒業生に対する調査内容]:①異種免許取得による現業に対する有用性、②養成大学への意見、③職務上の課題。以上をアンケート調査およびヒアリングによって行います。

Ⅲ 養成プログラムの検討・開発

Ⅰ、Ⅱを踏まえ、「小学校への見通しを持った幼児教育」推進に求められる資質能力の明確化を図るとともに、それに対応した養成カリキュラムについて具体的提言を行います。その際、学校教育現場との協業による養成プログラムについては、教育委員会、教育現場からの助言を受け、実施可能な内容を検討します。また、養成プログラムは、履修カリキュラムモデルとして提言する予定ですが、その点についても養成大学からの助言を得て、より実効性の高いものを構築することを目指します。

資料3. アンケートA（対象：幼稚園・保育園・こども園）表面

【文部科学省 平成27年度総合的な教師力向上のための調査研究事業】

1

小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員の養成に関する調査研究アンケート [A]

東海大学短期大学部

★以下のアンケートにお答えください。回答できないものは、無回答で結構です。なお、研究成果において、園名等は明らかにしません。

①連携体制

Q1. 地域の小学校との連携体制は整えられていますか？ いる いない

※不十分でもやっていることがあれば、「いる」とお答えください。

■「いる」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q1-1. 教員の意識について（複数回答可）

- 教員の多くが連携内容や活動について説明できる。
 教員の多くが連携を意識した教育・保育内容について関心を持っている。
 教員の多くが今後の連携促進の必要性を感じている。

Q1-2. 実施支援体制について

- 整えられている 整えられていない

※少しでも支援体制があれば、「整えられている」とお答えください。

Q1-3. 主に推進している方はどのような方ですか。（複数回答可）

- 校長・園長 教頭・教務主任 校内コーディネーター その他(_____)

■「いない」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q1-4. その理由をお答えください。（複数回答可）

- 教育・保育現場で必要性をあまり感じていないため 時間的な制約（多忙）のため
 連携先との調整がつかないため コーディネーター不在のため
 その他(具体的に: _____)

②交流活動

Q2. 地域の小学校との交流活動を行っていますか？ いる いない

■「いる」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q2-1. 教員同士の交流の内容について（複数回答可）

- 教員同士の意見交換 記録・文書による情報交換 親睦を目的とする活動
 授業参観・保育参観 発達の気になる子どもについての情報交換

Q2-2. 子ども及び保護者の交流について（複数回答可）

※下記「幼児」とは、幼稚園児、保育園児、こども園児を指します。

- 幼児と児童の交流 幼児（入学予定児）の小学校教育活動・行事への参加
 児童の保育活動・行事への参加 幼児の保護者による小学校授業参観
 保護者に対する文書（おたより等）による情報発信
 その他(具体的に: _____)

■「いない」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q2-3. その理由をお答えください。（複数回答可）

- 教育・保育現場で必要性をあまり感じていないため 時間的な制約（多忙）のため
 連携先との調整がつかないため コーディネーター不在のため
 その他(具体的に: _____)

③教育・保育内容

Q3-1. 幼稚園等の「接続カリキュラム」はありますか。 ある ない 分からない

※「幼稚園等」とは、幼稚園、保育園、こども園を指します。

Q3-2. 地域の小学校の「スタートカリキュラム」について知っていますか。 知っている 知らない

Q3-3. 交流の際の具体的な指導計画はありますか。 ある ない 分からない

Q3-4. 就学前に子どもたちに身につけてもらいたいことは何ですか。（上位3つを選んでください）

- 文字を読む 学びの意欲 規律（座っていること）を守る

アンケートA（対象：幼稚園・保育園・こども園）裏面

- 自分の思いを言う 好き嫌いなく食べる 自分の持ち物の片付け
人の話を最後まで聞く 誰とでも遊ぶこと 基本的生活習慣 時間を意識する
その他（具体的に：_____）

- Q3-5. 就学にあたって小学校に配慮して欲しいことは何ですか。
子どもの特性理解(具体的に：_____)
保育内容への理解(具体的に：_____)
その他（具体的に：_____）
- Q3-6. 小学校の学習内容を意識した保育を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない
- Q3-7. 就学に向けての子どもの意欲を高める活動を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない
- Q3-8. 小1プロブレムに対応する活動を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない
- Q3-9. 発達の気になる子どもに対応するための連携を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない

④教員に求められる資質

- Q4-1. 連携促進のために、特に求められる資質（意欲、協調性など）はありますか。
ある（具体的に：_____）
ない
- Q4-2. 新規採用教員への研修の中で、連携促進を意識した内容がありますか。
ある ※以下、複数回答可
幼児期の発達に関する知見の修得 保育内容への理解の修得
児童期の発達に関する知見の修得 学習内容への理解の修得
その他(具体的に：_____)
ない
- Q4-3. 園内研修、行政や協会等で行う研修の中で、連携促進を意識した内容がありますか。
ある ※以下、複数回答可
幼児期の発達に関する知見の修得 保育内容への理解の修得
児童期の発達に関する知見の修得 学習内容への理解の修得
その他(具体的に：_____)
ない
- Q4-4. 合同研修はありますか。
ある（参加校園種：□幼稚園、□こども園、□保育園、□小学校、□中学校）（複数回答可）
 (概要：_____)
 ※パンフレット等があれば本アンケートと一緒に送ってください。
ない

⑤連携促進に向けた現状の課題

- Q5. 連携上の課題となっていることはどんなことですか。（複数回答可）
連携体制 人的交流 教育・保育内容 教員に求められる資質 特になし
その他(具体的に：_____）

⑥その他

- Q6. その他、意見等があればご自由にお書きください。

資料4. アンケートB (対象: 小学校) 表面

[文部科学省 平成27年度総合的な教師力向上のための調査研究事業]

501

小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員の養成に関する調査研究アンケート [B]

東海大学短期大学部

★以下のアンケートにお答えください。回答できないものは、無回答で結構です。なお、研究成果において、校名等は明らかにしません。

①連携体制

Q1. 地域の幼稚園等との連携体制は整えられていますか? いる いない

※不十分でもやっていることがあれば、「いる」とお答えください。

※「幼稚園等」とは、幼稚園、保育園、こども園を指します。(以下、同じ)

■「いる」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q1-1. 教員の意識について (複数回答可)

教員の多くが連携内容や活動について説明できる。

教員の多くが連携を意識した教育・保育内容について関心を持っている。

教員の多くが今後の連携促進の必要性を感じている。

Q1-2. 実施支援体制について

整えられている 整えられていない

※少しでも支援体制があれば、「整えられている」とお答えください。

Q1-3. 主に推進している方はどのような方ですか。(複数回答可)

校長・園長 教頭・教務主任 校内コーディネーター その他(_____)

■「いない」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q1-4. その理由をお答えください。(複数回答可)

教育・保育現場で必要性をあまり感じていないため 時間的な制約(多忙)のため

連携先との調整がつかないため コーディネーター不在のため

その他(具体的に: _____)

②交流活動

Q2. 地域の幼稚園・保育園・こども園との交流活動を行っていますか? いる いない

■「いる」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q2-1. 教員同士の交流の内容について (複数回答可)

教員同士の意見交換 記録・文書による情報交換 親睦を目的とする活動

授業参観・保育参観 発達の気になる子どもについての情報交換

Q2-2. 子ども及び保護者の交流について (複数回答可)

(※下記「幼児」とは、幼稚園児、保育園児、こども園児を指します。)

幼児と児童の交流 幼児(入学予定児)の小学校教育活動・行事への参加

児童の保育活動・行事への参加 幼児の保護者による小学校授業参観

保護者に対する文書(おたより等)による情報発信

その他(具体的に: _____)

■「いない」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q2-3. その理由をお答えください。(複数回答可)

教育・保育現場で必要性をあまり感じていないため 時間的な制約(多忙)のため

連携先との調整がつかないため コーディネーター不在のため

その他(具体的に: _____)

③教育・保育内容

Q3-1. 小学校の「スタートカリキュラム」はありますか。 ある ない 分からない

Q3-2. 地域の幼稚園等の「接続カリキュラム」について知っていますか。 知っている 知らない

Q3-3. 交流の際の具体的な指導計画はありますか。 ある ない 分からない

アンケートB（対象：小学校）裏面

- Q3-4. 就学前に子どもたちに身につけてもらいたいことは何ですか。（上位3つを選んでください）
文字を読む 学びの意欲 規律（座っていること）を守る
自分の思いを言う 好き嫌いをなく食べる 自分の持ち物の片付け
人の話を最後まで聞く 誰とでも遊ぶこと 基本的な生活習慣 時間を意識する
その他（具体的に：_____）
- Q3-5. 就学前に幼稚園・保育園・こども園で身に付けたことを生活面や学習面で活用していますか。
活用している（具体的に：_____）
活用していない
- Q3-6. 小1プロブレムに対応する活動を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない
- Q3-7. 発達の気になる子どもに対応するための連携を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない

④教員に求められる資質

- Q4-1. 連携促進のために、特に求められる資質（意欲、協調性など）はありますか。
ある（具体的に：_____）
ない
- Q4-2. 新規採用教員への研修の中で、連携促進を意識した内容はありますか。
ある ※以下、複数回答可
幼児期の発達に関する知見の修得 保育内容への理解の修得
児童期の発達に関する知見の修得 学習内容への理解の修得
その他（具体的に：_____）
ない
- Q4-3. 校内研修、行政や協会等で行う研修の中で、連携促進を意識した内容はありますか。
ある ※以下、複数回答可
幼児期の発達に関する知見の修得 保育内容への理解の修得
児童期の発達に関する知見の修得 学習内容への理解の修得
その他（具体的に：_____）
ない
- Q4-4. 合同研修はありますか。
ある（参加校園種：幼稚園、こども園、保育園、小学校、中学校）（複数回答可）
（概要：_____）
※パンフレット等があれば本アンケートと一緒に送ってください。
ない

⑤連携促進に向けた現状の課題

- Q5. 連携上の課題となっていることはどんなことですか。（複数回答可）
連携体制 人的交流 教育・保育内容 教員に求められる資質 特になし
その他（具体的に：_____）

⑥その他

- Q6. その他、意見等があればご自由にお書きください。

資料5. アンケートC（対象：教育委員会等）表面

[文部科学省 平成27年度総合的な教師力向上のための調査研究事業]

801

小学校への見通しを持った幼児教育に資する教員の養成に関する調査研究アンケート [C]

東海大学短期大学部

★以下のアンケートにお答えください。回答できないものは、無回答で結構です。なお、研究成果において、園、校名等は明らかにしません。

①連携体制

Q1. 地域の小学校と幼稚園等との連携体制は整えられていますか？ いる いない

※不十分でもやっていることがあれば、「いる」とお答えください。

※「幼稚園等」とは、幼稚園、保育園、こども園を指します。(以下、同じ)

■「いる」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q1-1. 教員の意識について(複数回答可)

教員の多くが連携内容や活動について説明できる。

教員の多くが連携を意識した教育・保育内容について関心を持っている。

教員の多くが今後の連携促進の必要性を感じている。

Q1-2. 実施支援体制について

整えられている 整えられていない

※少しでも支援体制があれば、「整えられている」とお答えください。

Q1-3. 主に推進している方はどのような方ですか。(複数回答可)

校長・園長 教頭・教務主任 校内コーディネーター その他(_____)

Q1-4. 教育委員会に連携促進のための担当者をおいていますか。

おいている (役割を具体的に: _____)

おいていない

■「いない」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q1-5. その理由をお答えください。(複数回答可)

教育・保育現場で必要性をあまり感じていないため

連携先との調整がつかないため

教育・保育現場の時間的な制約(多忙)のため

コーディネーター不在のため

その他(具体的に: _____)

②交流活動

Q2. 地域の小学校と幼稚園等は交流活動を行っていますか？ いる いない

■「いる」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q2-1. 教員同士の交流の内容について(複数回答可)

教員同士の意見交換 記録・文書による情報交換 親睦を目的とする活動

授業参観・保育参観 発達の気になる子どもについての情報交換

Q2-2. 子ども及び保護者の交流について(複数回答可)

※下記「幼児」とは、幼稚園児、保育園児、こども園児を指します。

幼児と児童の交流 幼児(入学予定児)の小学校教育活動・行事への参加

児童の保育活動・行事への参加 幼児の保護者による小学校授業参観

保護者に対する文書(おたより等)による情報発信

その他(具体的に: _____)

■「いない」と答えた場合、以下の質問にお答えください。

Q2-3. その理由をお答えください。(複数回答可)

教育・保育現場で必要性をあまり感じていないため

連携先との調整がつかないため

教育・保育現場の時間的な制約(多忙)のため

コーディネーター不在のため

その他(具体的に: _____)

アンケートC（対象：教育委員会等）裏面

③教育・保育内容

- Q3-1. 小学校の「スタートカリキュラム」はありますか。 ある ない 分からない
- Q3-2. 幼稚園等の「接続カリキュラム」はありますか。 ある ない 分からない
- Q3-3. 交流の際の具体的な指導計画はありますか。 ある ない 分からない
- Q3-4. 就学前に子どもたちに身につけてもらいたいことは何ですか。（上位3つを選んでください）
文字を読む 学びの意欲 規律（座っていること）を守る
自分の思いを言う 好き嫌いをなく食べる 自分の持ち物の片付け
人の話を最後まで聞く 誰とでも遊ぶこと 基本的生活習慣 時間を意識する
- Q3-5. 小1プロブレムに対応する活動を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない
- Q3-6. 発達の気になる子どもに対応するための連携を行っていますか。
行っている（具体的に：_____）
行っていない

④教員に求められる資質

- Q4-1. 連携促進のために、特に求められる資質（意欲、協調性など）はありますか。
ある（具体的に：_____）
ない
- Q4-2. 新規採用教員への研修の中で、連携促進を意識した内容はありますか。
ある ※以下、複数回答可
幼児期の発達に関する知見の修得 保育内容への理解の修得
児童期の発達に関する知見の修得 学習内容への理解の修得
その他（具体的に：_____）
ない
- Q4-3. 校・園内研修、行政や協会等で行う研修の中で、連携促進を意識した内容はありますか。
ある ※以下、複数回答可
幼児期の発達に関する知見の修得 保育内容への理解の修得
児童期の発達に関する知見の修得 学習内容への理解の修得
その他（具体的に：_____）
ない
- Q4-4. 合同研修はありますか。
ある（参加校園種：幼稚園、こども園、保育園、小学校、中学校）（複数回答可）
（概要：_____）
※パンフレット等があれば本アンケートと一緒に送ってください。
ない

⑤連携促進に向けた現状の課題

- Q5. 連携上の課題となっていることはどんなことですか。（複数回答可）
連携体制 人的交流 教育・保育内容 教員に求められる資質 特になし
その他（具体的に：_____）

⑥その他

- Q6. その他、意見等があればご自由にお書きください。

養成大学対象アンケート 裏面

Q3-2. 貴学の授業以外の養成プログラムにおいて、幼児教育と小学校教育の連携を意識したものがあればお書きください。

- ①プログラム名[]概要[]
②プログラム名[]概要[]
③プログラム名[]概要[]

Q3-3. Q3-1 授業科目、Q3-2プログラムでの成果があればお書きください。

4. 求められる資質能力

Q4-1. 幼児教育と小学校教育の連携・接続に対応できる教員・保育者に求められる資質能力はどのようなものだと考えますか。(複数回答可)

- スタートカリキュラム、接続カリキュラムの理解 生活習慣上の課題に対する理解
接続期の心理的課題に関する知見 小学校の学習を意識した保育の理解
学びにつながる興味・関心・意欲の醸成 小1プロブレム等に関する知見
特別支援教育の連携についての理解 その他 []

Q4-2. 幼児教育と小学校教育の連携を意識した教員・保育者養成を行う際、見直したい(見直してもらいたい)点はどのような点ですか。(複数回答可)

- 授業内容 カリキュラム 関連法令 大学教員の資質 学外の実習先
その他 必要性を感じない

Q4-3. Q4-2の内容を具体的にお答えください

5. 履修指導

Q5-1. 学生が隣接免許資格の同時取得を目指す際の履修指導(動機付け等)はどのようにしていますか。(複数回答可)

- 取れるものは取っていたほうがいい 就職した校・園での教育に必要である
就職の際に有利である 連携・接続のために必要である 学生の自主性に任せている
その他 []

6. 就職状況

Q6-1. 2014年度卒業生の就職状況についてお答えください。(非正規含む)

学科・課程・コース等の卒業生 []名、就職者 []名、就職者のうち、
幼児教育関係：幼稚園 []% 保育園 []% こども園 []%
小学校教育関係：小学校 []% (※%は、小数点以下を四捨五入してください。)

Q6-2. 異種免許・資格取得状況について教えてください。

幼児教育関係に就職した学生のうち、小学校教諭同時免許取得者は []%
小学校関係に就職した学生のうち、幼稚園免許同時取得者は []%
保育士資格同時取得者は []%

7. その他

Q7-1. その他、意見等があればご自由にお書きください。